

# 行政視察等報告書

平成30年10月9日

境港市議会

議長 柗 康弘 様

会派名 新風

代表者 浜田 佳尚



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

## 記

1 視察等期間	平成30年 6月4日（月）～平成30年 6月5日（水）
2 視察等先 及び内容	平成30年6月4日（月） （視察場所）香川県 さぬき市役所 （視察内容）学校再編計画に基づく課題への取り組みについて  平成30年6月5日（火） （視察場所）香川県三豊市バイオマス資源化センターみとよ （視察内容）事業内容説明と施設見学
視察等議員	浜田佳尚、永井章
4 総 経 費	合計（2名）63,760円（一人当たり31,880円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所 見 等	別紙のとおり

平成30年6月4日（月）

内 容： 香川県 さぬき市  
学校再編計画に基づく課題への取り組みについて

報 告 者： 濱田 佳尚

視察先の説明者： さぬき市議会 副議長 谷本静雄（挨拶後公務のため退席）  
さぬき市教育委員会 教育長 安藤正倫  
同事務局 教育部長 中野敏記  
学校再編対策室 参事 穴吹靖昭  
教育総務課長兼学校再編対策室長 間嶋文一  
学校再編対策室 室長補佐 濱崎広伸  
学校再編対策室 係長 太田 洋  
さぬき市議会事務局 課長 十川昌弘

【 所見等 】

平成 14 年に旧5町が合併して出来たさぬき市であるが、市内の児童、生徒数の減少による学校の小規模化が顕著となり、また、学校施設の老朽化が進み、耐震化対策、危険改築及び大規模改修が喫緊の課題となった。

市教委では、新しい時代に対応した学校づくりのため「さぬき市学校再編計画検討委員会」を設置、学校の適正規模による適正な配置、今後の施設整備について、その方向性と具体的なプランを示すための学校再編計画を平成20年6月に 10 ヶ年計画を策定した。将来にわたり、生徒数が減少することが判明し現計画では、適正な学校規模の確保ができないと判断した。その内容は、小学校14校1分校を6校に、中学校6校を3校に、幼稚園12園1分園を6園に再編としこれを段階的に実施するというもの。教育委員会は、この計画をもとに、児童、生徒、保護者、地域住民との話し合いの場を設けて、しっかりと対話を重ねていくことが不可欠であるという考えであった。また、学校再編計画 5 年目に計画の改定を行うと同時に、当初から検討していた、学校等跡地施設利用活用のための基本方針を定めた。中学校プールについては廃止し、市民プールを利用する等、無駄をなくした利活用の計画を策定されている。

安藤教育長に境港市の状況についてお伝えし小中一貫校についてのお考えを聞かせていただいた。さぬき市においては、今現在は小中一貫校に再編する考えはないとのことだった。様々な学校、地域の現状を研究した上で、メリットデメリットを踏まえ判断されたとのこと。

やはり、学校の再編、教育環境のありかたはそれぞれの地域によって考え方は大きく変わるものである。境港市においては、今後の学校再編の在り方は、まだ具体的な協議や説明が進んできている段階ではないが、議会はもちろん、地域、保護者、子どもたちも含めて今後の境港市の教育環境について協議を重ねていく必要があると改めて考えさせられた。

平成30年6月5日(火)

内 容： 香川県三豊市  
バイオマス資源化センターみとよ (株) エコマスター  
事業内容説明と施設見学  
報 告 者： 濱田 佳尚  
視察先の説明者： (株) エコマスター 代表取締役 海田周治  
バイオマス資源化センターみとよ  
BT マスター (センター長) 鎌倉秀行  
奥田尚一

【 所見等 】

「バイオマス資源化センターみとよ」は可燃ごみを燃やさずに資源にする国内初の新手法により平成29年4月に稼働した。生ごみなどを発酵、分解し、その際に発する熱で紙ごみなどを乾燥させ固形燃料の原料として取り出す。二酸化炭素の排出を抑えダイオキシン類も発生しないといった技術である。

煙突も焼却炉もない倉庫のような施設内に、幅6m、高さ5m、奥行き35mのコンクリート製発酵槽「バイオトンネル」に17日間ごみを閉じ込めて微生物の分解処理を待つ「トンネルコンポスト式」と呼ばれる手法である。トンネル内部では、微生物により生ごみや草木と言った有機物が発酵し始めると温度が摂氏70度近くに上り雑菌が死滅し、酸素濃度や圧力、送風を制御し有益な微生物が活動しやすい30～50度を保ち分解を促す。1基当たり3日分程度のごみを詰められ、6基のバイオトンネルを利用しサイクルを保っている。

この手法は、焼却を行わないため、焼却灰の埋め立てが不要であり、環境負荷を減らせるとしている。CO<sub>2</sub>削減効果は年間約6500ト、約3000人分の年間排出量にあたる。脱臭装置も備え、臭いは木質チップ層通過時に微生物が分解し、設備は常に気圧の低い状態を保ち、外部への臭気漏れを防ぐ。水も発酵用に消費し、排水は発生しない。施設見学において、施設内をまわった際にもいわゆるゴミが大量にあるにも関わらず、嫌な臭いはほとんどない環境であった。

境港市の状況をお話ししたところ、自治体の環境としては十分にトンネルコンポスト式の施設が設置できるとのお返事を受けた。本市においても検討していく必要があると考える。